

平成28年8月8日(火)

老球の細道256

オリンピック秘言

会津バスケットボール協会 室井 富仁

リオデジャネイロ五輪開幕。日本バスケットボール界のメジャー化を背中に背負いながら日本女子ナショナルチーム(アカツキジャパン)はブラジルのリオで修羅場の戦いを演じている。現在予選リーグ2連勝。いずれも世界ランキング上位のチームを持ち前のスピードと3Pシュートで連覇。史上最強と言われる現代表チーム、「小は大を凌駕する」を見せつけてほしい。ニックネームは「牛若丸ジャパン」のほうが良かった。

そもそもオリンピックとは何か。オリンピックとは1894年6月23日、フランス人の貴族ピエール・ド・クーベルタン(1832-1900)の提唱により開催されるようになった国際総合競技大会のことである。

オリンピックは4年に1度世界最強のアスリートを決する最高のスポーツ大会という事だけではなく、スポーツを通して、人間の調和のとれた発達に役立てることと世界平和の実現を目指す「オリンピズム(オリンピック精神)」を広めるための活動「オリンピックムーブメント」の一つである。オリンピックムーブメントは、オリンピズムの諸価値によって生きようとするすべての個人や団体によるIOCのもとで行われる普遍的、恒久的な活動をいう。オリンピック、アンチドーピング、休戦協定、環境の保全運動などがある。

クーベルタンは、紀元前8世紀頃ギリシャの首都アテネのオリンピアという土地で行われていたゼウスに捧げる祭典競技(古代オリンピック)にヒントを得て、イギリスにわたった時に見たイギリスのウエンロックという町で行われていたオリンピック競技会のように感激して、国際的なオリンピック競技会の開催を思いついたという。

クーベルタンは天才的なパクリマンだった。古代オリンピックから近代オリンピックを想いついたけにとどまらない。特に有名なのは1908年第4回ロンドン大会で生まれた「オリンピックの理想」として残るあの有名なクーベルタンの名言である。この大会では、陸上競技、綱引きなどでアメリカとイギリスの選手が激しく争い、むきだしのケンカを続けていた。これに対し、大会期間最初の日曜日礼拝にセントポール寺院が参加選手を招待し、ペンシルバニアの主教エチエルバート・タルボットが「オリンピックで重要なのは、勝つことではなく、参加することである」と説教したという。

クーベルタンはこの言葉に感銘し、後日、イギリス政府主催のレセプションで、この言葉を引用してスピーチをした。

「ペンシルバニアの主教が、“オリンピック競技大会で重要なことは、勝つことではなく、参加することである”と述べられたのは、まことに至言である。そして、人生で重要なのは、成功することではなく、努力することである。大切なのは、征服(勝利)したかどうかではなく、よく闘ったかどうかである」

1932年(10回ロサンゼルス大会)からこの言葉は「オリンピックの理想」として使用されている。またオリンピックのモットー「より速く、より高く、より強く」もクーベルタンのパクリである。友人であるフランス人神父が、校長をしていた自分の高校のラグビー選手に与えた訓示を引用した。まさに創造は模倣から。

オリンピック真最中、次は東京。色々なことを貪欲に学びたい今日この頃である。